

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取り組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年度から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 平成30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを生かし、高度な学習機会を提供することができた。 条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報をとおして、団体・一般客の平等利用に努めた。	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; background-color: #FFB6C1;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D
	A		B	C	D		
▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発とともに、第3次札幌市生涯学習推進構想を踏まえながら、今後も幅広い世代に対する学習機会の提供を期待する。 平等利用の確保に向け、市民の意見を取り入れるとともに、自ら発信することに努めており、評価する。						

<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <ul style="list-style-type: none">▼ 電気、ガス、水道の使用については、空調設備及び電気設備業者と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。▼ 「環境科学展」の開催や展示物により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。	<p>環境局と連携をとり、空調調整や「見える化システム」の導入などにより、効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。</p> <p>「環境科学展」の開催や、展示室内に太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民へ省エネ・環境配慮に関する取組を周知することができた。</p>	<p>市内の企業や団体と連携し、環境問題と対策技術などを体験的に学べるイベントを開催し、市民の省エネや環境への興味関心を高めており、評価する。</p>
<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none">▼ 業務分担、式命令系統、連絡系統を定めた。▼ 館長1名、課長2名、係長5名を配置した。▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・アルバイト職員等の採用を行った。▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。▼ 人材育成のため、外部講師を招いて研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件の下で、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。	<p>適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保につなげることができた。</p> <p>研修等に積極的に参加し、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。</p> <p>各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。</p>	<p>管理運営組織が確立されており、評価する。今後も、より一層充実した市民サービスの向上に努めること。</p> <p>財団の就業規則や36協定等については、財団内の研修において再度周知を行うとともに、これらの規則の遵守を意識させるよう努めること。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none">▼ ネットワーク環境の整備により、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。▼ 日常により、事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。	<p>これまでの運営経験で培われたノウハウを生かし、管理水準の維持向上につなげた。</p>	<p>管理水準の維持向上に向け適切に取り組んでおり評価するが、定期的に事故防止に向け見直す機会を設けるよう努めること。</p>
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <ul style="list-style-type: none">▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。	<p>施設の維持管理及び展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減及び業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。</p>

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月22日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度4月～5月までの事業報告 平成29年度の主な事業報告及び収支報告など その他
第2回 11月13日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度夏期間の事業報告 胆振東部地震、台風などの影響など その他
第3回 3月6日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度冬期間の事業報告 利用者アンケートの報告 平成31年度の事業計画 その他
<協議会メンバー> 北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授 札幌市立屯田南小学校校長 札幌市立中島中学校校長 札幌市青少年育成委員会青葉地区会長 一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長 札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長 札幌市青少年科学館館長	

▼ 学校連絡会の開催状況は下表のとおり

開催日	協議・報告内容
小学校 1月31日	<ul style="list-style-type: none"> 科学館の学校連携事業について 次年度以降の学校教員を対象にした科学館モニターツアーの開催について その他
中学校 2月5日	<ul style="list-style-type: none"> 科学館の学校連携事業について 次年度以降の学校教員を対象にした科学館モニターツアーの開催について その他
<協議会メンバー> <ul style="list-style-type: none"> 小学校連絡会 屯田南小学校校長、簾舞小学校校長、苗穂小学校校長、北光小学校教頭、西岡南小学校、幌西小学校、札幌北小学校、川北小学校、発寒西小学校、手稲北小学校、札幌市青少年科学館 中学校連絡会 篠路西中学校校長、札幌中学校校長、あやめ野中学校教頭、厚別南中学校教頭、もみじ台南中学校、明園中学校、厚別中学校、平岡中学校、陵北中学校、札幌市青少年科学館 	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応できた。

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

本年度より、新たに一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長を運営協議会のメンバーに加えるとともに、役割と意義について見直し、ただの事業報告の場にならないよう資料の作成方法や協議手法を見直しており評価する。引き続き、科学館の運営管理における有意義な意見交換が行われる場となるよう更なる工夫を期待する。

主たる利用者である小中学校の現場の意見を聞き、今後の事業運営の参考になった。

小中学校からの意見やアドバイスは率直に受け止め、引き続き学校教育との連携強化に努めること。

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等へのつと、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適切に取り組みされており、評価する。今後も適切な財務管理が行われるよう、職員の意識啓発や職員間のチェックを怠らざることを努めること。

	<p>▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。</p> <p>▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」にのっとり、事故・不祥事を未然に防ぐ取組を行っている。</p> <p>▼ 現金等の取扱いについて「小口現金取扱要領」定め、適正に行った。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。</p> <p>▼ 全ての職員が常に確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ 職員の待遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を逐次実施し、利用者の生の声を事業運営等に生かしている。</p>	<p>規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。</p> <p>要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。</p> <p>アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が9割以上であり、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。</p>	<p>適切な取り組みを行っており、評価する。</p> <p>苦情等について、逐次報告があり、適切な処理が行われているが、苦情については苦摺に受け止め、より良い運営に資するよう努めること。</p> <p>市民から寄せられる声に常に耳を傾けるとともに、アンケート結果を踏まえた事業の見直しを行い、満足度がこれまで以上に高まるような取組に期待する。</p>				
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。</p> <p>▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件の下で、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。</p>	<p>関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。</p> <p>社労士に委託し、相談窓口の設置や労働環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善につなげた。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td style="background-color: #FFC0CB;">C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するよう努めること。</p> <p>36協定などを遵守し、引き続きより良い労働環境となるよう努めること。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼ 災害時の対応について、マニュアルに基づき、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成、役割分担等を作成し、利用者の安全確保に努めている。</p> <p>▼ 利用者を安全・円滑に避難誘導させることができるよう、無線機を備え、新たな避難要領を作成した。</p>	<p>各種災害に関する避難マニュアルを作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: #FFC0CB;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>引き続き、安全確保の強化に向けた取組を期待する。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)については、第三者委託により実施している。</p> <p>▼ 躯体の老朽化に伴う修繕について、札幌市教育委員会と調整を図った。</p> <p>▼ 屋外タイル等躯体以外の老朽化に伴い、破損箇所が発生しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。</p> <p>▼ 展示物の老朽化に伴い、休止中のものが存在しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 防災計画を策定するとともに、年度内2回の防災訓練を実施し、避難体制の確認に努めた。</p>	<p>業務の効率化、施設・展示物の老朽化への対応として、教育委員会と連携し、計画的に対応することができた。</p> <p>火災や地震発生時の対応等、様々な災害を想定した訓練を実施することにより、災害発生時の対応力の向上を図ることができた。</p>	<p>適切に取り組みされており、評価する。</p> <p>施設等の老朽化への対応については、利用者だけでなく近隣住民にも大きな影響を与える可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。</p> <p>展示物の老朽化に対しては、適切な管理を行っているだけでなく、様々な工夫を施し対応しており、大変評価する。</p> <p>適切に取り組みされており評価する。</p> <p>なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。</p>								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示</p> <p>▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。</p> <p>見て、触れて、考えるをテーマに、天文・地球科学、北方圏、電気、力学などの各コーナーの展示物をより楽しく理解しやすくするよう努め、来館者に科学への興味・関心を深めてもらった。</p> <p>▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。</p> <p>・夏休み「おばけのマ〜ルとふしぎなかがくじっけん」 30日間開催(来館者:45,998名) (協力:中西出版株式会社、中西印刷株式会社、札幌オリンピックボール) (主な取組)「やってみたくなる物理実験」をテーマに、絵本「おばけのマ〜ル」のキャラクターを会場全体のデザインに取り入れたことで、難しいイメージがある物理実験に親しみを感じながら楽しんでいただけた。</p> <p>・冬休み「カンカクをとぎすませ！～ブラックサイエンジャーからの挑戦～」 16日間開催(来館者:12,981名) (協力:近畿大学バイオコース研究所) (主な取組)自身の体の感覚を使った展示を軸としたことで、普段はあいまいな体の感覚について、楽しみながら知っていただくことができた。</p>	<p>展示物をとおして広く市民に科学や科学技術の知識を提供できた。</p> <p>小中学生の長期休暇期間等に、特定のテーマを掘り下げた展示・実演を行い、科学の楽しさ、面白さを伝えることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>展示物が、科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けて、常設展示だけでなく実演展示による解説者とのコミュニケーションをとおし、来館者の興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。</p> <p>特別展等については、これまで科学館に来館したことがない方でも、楽しみながら科学を学べるよう、職員のノウハウやアンケート結果などを生かしながら事業を計画し運営している。それにより、新しい利用者等の確保につながっていることから、大変評価する。</p> <p>引き続き、科学や科学技術の知識の普及啓発となるような様々な内容のイベントを期待する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>展示物が、科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けて、常設展示だけでなく実演展示による解説者とのコミュニケーションをとおし、来館者の興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。</p> <p>特別展等については、これまで科学館に来館したことがない方でも、楽しみながら科学を学べるよう、職員のノウハウやアンケート結果などを生かしながら事業を計画し運営している。それにより、新しい利用者等の確保につながっていることから、大変評価する。</p> <p>引き続き、科学や科学技術の知識の普及啓発となるような様々な内容のイベントを期待する。</p>			
A	B	C	D								
<p>展示物が、科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けて、常設展示だけでなく実演展示による解説者とのコミュニケーションをとおし、来館者の興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。</p> <p>特別展等については、これまで科学館に来館したことがない方でも、楽しみながら科学を学べるよう、職員のノウハウやアンケート結果などを生かしながら事業を計画し運営している。それにより、新しい利用者等の確保につながっていることから、大変評価する。</p> <p>引き続き、科学や科学技術の知識の普及啓発となるような様々な内容のイベントを期待する。</p>											

・春休み「星座展～ギリシャ神話からキトラ古墳まで～」
16日間開催(来館者:17,596名)
(協力:全国科学館連携協議会)
(企画・制作:明石市立天文科学館)
(主な取組)春休み期間中に、全国科学館連携協議会で制作した展示物を借用・展示し、来館者の科学に対する興味・関心を喚起した。

▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会を実施した。
・山崎直子宇宙飛行士特別講演会「今も昔もかわらない、宇宙へのあこがれ！～先人たちの宇宙への挑戦と宇宙開発の今～」山崎直子(参加者:152名)
・「スマートスピーカーから学ぶ音声科学」北海道大学助教 青木直史(参加者:68名)

▼ 2階「学習コーナー」に、科学及び科学技術に関する資料・図書を置き、学校の総合学習をはじめとする学習の補助とした。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験をとおして、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室
「ものをつくる喜び」を喚起し、科学的な視点を養うことを目的とした工作教室を開催した。
小中学生向け 162回 参加者:1,579名
夏休み 12日間48回 参加者:980名
冬休み 8日間32回 参加者:464名
アイデアをカタチにする工作会 5日間10回 参加者:67組134名

● 各種実演

・サイエンスショー
身近な材料を使って、科学現象や原理を楽しくわかりやすく伝えるショーを実施した。
737回 参加者:20,031名
「体のセンサー 不思議で、へんさー！」ほか

・ロボットショー
サッカーロボットやコミュニケーションロボットの実演によりロボット技術についての紹介を行った。
2回/日
・テレビスタジオ
クロマキー撮影など、特殊撮影で使われている技術の紹介を行った。
2～3回/日

・低温展示室
マイナス10度の室内で南極の氷やつらら、流氷などの展示・解説を行った。
3回/日

・人工降雪装置
自然環境と同様の条件で雪を降らせ、雪や降雪に関する解説を行った。
4回/日

・ちょびっとサイエンス
展示室内にて対面型の簡単な実験を行った。
58回 参加者:3,424名

・日曜実験室
子どもたちの科学への興味・関心を高めるため、小中学生向けの実験教室を開催した。
65回 参加者:795名
「洗剤の科学「汚れを撃退！洗剤の潜在パワーを探る」」ほか

山崎直子名誉館長の講話を実施することで、当館のPRと新たな利用者の開拓につなげることができた。

ホームページにて動画を使った広報を実施したことにより、参加者数が増加した。また、夏休み工作会では、夏の特別展と連動した内容で実施し、参加者数の増加につながった。

サイエンスショーや人工降雪装置の実演などとおし、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

4か月ごとにブログラムを変更し、多くの分野の内容を取り扱うことにより、理科の面白さを伝えることができた。

科学を楽しめる実験や講座の実施においては、子どもから大人まで幅広く楽しむことができるよう努めており、評価する。今後も、青少年を中心にしながら幅広い年代に対し科学への興味・関心が高まるような事業の実施に取り組むこと。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながることから、機器が老朽化する中で事業実施自体が困難なものもあるが、引き続き利用者に楽しんでもらえるよう継続した運営に期待する。

<p>・移動科学館 普通の授業では困難な実験を学校へ出向き実施し、理科の授業を支援した。 小学校4年生 2校136名 「すごいぞ！空気！」</p> <p>・実験・実習への協力 市内の小学校及び幼稚園等を対象に、3階サイエンスホールで、学習内容に沿った実験等を行った。 学習サイエンスショー 37校43回3,240名 環境学習プログラム 1校57名 理科授業プログラム 6校636名 幼児のための学習サイエンスショー 9園3回306名</p>	<p>サイエンスホールを活用し、来館する市内小学校等を対象に学習単元に基づくサイエンスショーを行うことで理解度を深めることができた。</p>	<p>学校教育との連携拡充に向け、学習サイエンスショーをはじめ、理科授業プログラムのモデル授業の実施など、市教委と連携した取組にも積極的に取り組んでおり、大変評価する。今後も更なる拡充に向けた事業の実施及び協力を期待したい。</p>
<p>▼ サイエンジャー科学教室 主に土曜日と夏休み期間中に小・中学生を対象に、テーマや実演方法を工夫した工作・実験教室などを実施した。 19回 受講者:362名 「AMラジオをつくろう！」(日本無線株式会社北海道支社) 「自分の手で、携帯電話を分解しよう！」(KDDI株式会社)ほか</p>	<p>他団体と連携し、様々な分野の体験型実験教室を実施できた。また、それらをとおして職員の資質向上を図ることができた。</p>	<p>専門性の高い事業の実施は、小中学生のみならず一般の方からの要望も強いことから、更なる事業拡充を期待したい。 また、事業実施したことで得られた知識や経験を、今後の事業に生かし拡大していくことを期待する。</p>
<p>▼ 中高生による科学教室 中学校・高校の科学部などの生徒が研究の成果を発表し、互いに交流する場を提供するとともに、一般参加者も参加・体験できる科学教室を実施した。 中高生によるサイエンス広場 参加校5校59名</p>	<p>中学校と高校科学部の活動について市民に知ってもらう機会を提供することができた。</p>	<p>中学生や高校生、更には大学生に科学館の事業を知ってもらう取組については、大変評価できるとともに、引き続き新しい利用者確保に向けた取組に期待する。</p>
<p>▼ 大学生による科学教室 大学生の研究実践の場を提供するとともに、子どもたちの科学への興味関心を高めるため、大学生が小中高生を指導する科学教室を実施した。 2回 受講者37名 「さぐってみよう！電気のはたらき」(千歳科学技術大学)ほか</p>	<p>参加者との年齢が近い大学生が講師をすることで、子どもたちが積極的に講座に参加するようになり、より効果的に科学教育普及活動がすることができた。</p>	
<p>▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発</p> <p>▼ 仕様書に基づき、1日4～6回星空の生解説を含めた通常投影を行うとともに、効果的な時期に興味深いテーマの投影を実施することで、市民への天文知識・興味の普及啓発に努めた。 通常投影 1,365回 観覧者:88,872名 特別投影 8回 観覧者:1,287名</p>	<p>プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の興味関心を喚起することができた。</p>	<p>火星の最接近など話題となっている天文現象などを特別投影として実施しており、市民の興味関心を高めるだけでなく、市天文台と連携した取組となっており、大変評価する。 今後も時宜を得た事業内容に期待する。</p>

<p>▼ 学習投影 小中学校を対象に、理科授業の一環として、学校の教室では表現しづらい天体の動き等を学習するプラネタリウム投影を行った。 230校 174回 観覧者:18,145名(市外含む)</p>	<p>学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。</p>	<p>学校教育の中に位置づけられた有意義な授業であり、子どもたちの理科への興味関心を高める導人となっていることから、引き続き、理科好きが生まれるような取組に期待する。</p>
<p>▼ オート番組制作・購入 一般投影時に用いる小学生向けプラネタリウムオート番組「科学戦隊サイエンジャーと星空散歩」を製作、「星の旅-世界編-」及び「HAY ABUSA2-RETURN TO THE UNIVERSE-」を購入し、投影した</p>	<p>職員のシナリオにより、小学生の天文分野の学習に特化した番組を制作することができた。</p>	<p>注目されている題材などを踏まえ、番組を制作・購入しており、今後の市民の関心が高いものになるよう期待する。</p>
<p>▼ キッズプラネタリウム 未就学児と保護者を対象に、歌や動物探しを取り入れた特別なプラネタリウムを実施した。 4回 観覧者723名(平日)</p>	<p>昨年より更に内容の検討を図り、対象年齢に向けたプログラムを投影することができた。</p>	<p>周りを気にすることなくプラネタリウムを楽しめる機会は大変貴重であるので、今後も未就学児や保護者を対象にしたイベントの継続を期待する。</p>
<p>▼ 移動プラネタリウム 地理的、時間的に来館困難な小学校などへ出向き、学習投影を行った。また、幼稚園やイベントなどで星空の投影と解説を行った。 ・幼稚園 5園11回339名 ・小学校 9校15回547名 ・中学校 5校16回541名</p>	<p>来館困難な子どもたちに、天文分野の学習の支援することができた。</p>	<p>アウトリーチ活動は、人員を要するため実施回数に限界があるものの、幼稚園から中学校までニーズの高い事業であるため、引き続き可能な範囲での実施を期待する。</p>
<p>▼ 字幕付きプラネタリウム 耳の不自由な人のために、字幕付き投影を行った。 4回 観覧者166名</p>	<p>字幕をつけることで耳の不自由な利用者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。</p>	
<p>▼ プラネタリウム祭り プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともにその魅力を広く市民に伝えるため、絵本の読み聞かせなど、科学以外のジャンルと合わせた内容のイベントを実施した。 4日間 観覧者2,679名</p>	<p>幼児から大人まで楽しんでいただける企画を実施することができた。普段のプラネタリウムとは違った企画を実施し、プラネタリウムの新たな可能性を探ることができた。</p>	<p>普段とは異なるプラネタリウムの活用しており、今後の新規事業の検討にもつながる取組となっており、大変評価する。</p>
<p>▼ 移動天文台 市内各地域の団体からの依頼により、移動天文車と職員・天文指導員を派遣し、観望会を行った。 申込:46団体(天体観望会実施27団体、屋内実施7団体、中止12団体) 参加者:2,723名</p>	<p>広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。</p>	<p>移動プラネタリウム同様、利用者の満足度の高い事業であることから、引き続き可能な範囲での実施に期待する。</p>

<p>▼ 札幌市天文台 都心近接の立地条件を生かして、天体観望会の機会(昼・夜)を提供した。 午前244回 観覧者:5,928名 午後212回 観覧者:5,977名 夜間49回 観覧者:6,606名</p>	<p>太陽や季節の星座を中心に広く市民に天体観測の機会を提供できた。火星大接近にあわせ観望会を実施することで、普段宇宙への興味がない市民層にも天文への関心を引くことができた。</p>	<p>火星最接近に併せて市民の興味関心が高まるよう夜間においても積極的に観望会を実施しており大変評価する。引き続き、来台者の興味関心が高まるよう天文イベントに併せて事業の実施に期待する。</p>
<p>▼ 宇宙セミナー 宇宙・天文についての興味関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招いて講演を行った。 1回 受講者:147名 「はやぶさ2講演会」</p>	<p>はやぶさ2など、流行の話題・旬の話題を扱った講座を実施することができ、宇宙天文に関する市民の関心を高めることができた。</p>	<p>「はやぶさ2」は、話題のあるテーマであり興味関心が高い内容である。引き続き、人気のあるテーマ(ロケットなど)での事業実施に期待する。</p>
<p>▼ 大人のための天文教室 大人対象の天文教室を継続して実施することにより、科学館利用者の年齢層の拡大を図った。 やさしく学ぶ星空教室 1回 受講者:22名 くわしく学ぶ星空教室 1回 受講者:23名 この夏大接近!火星講座 2回 受講者:61名</p>	<p>天文現象の解説や天体観測機器を活用した天文教室を行うことで、市民へ天文知識の普及啓発を図ることができた。</p>	
<p>▼ 親子天文教室 親子で参加する教室を実施し、来館者やイベント参加へのきっかけづくりとした。 6回 受講者:94組257名</p>		
<p>▼ 天文指導員の養成 天文に興味を持っている又は指導する立場を目指している市民等を対象として、天文普及活動を担う人材を育成した。 登録者:39名</p>	<p>月1回の定例研修を通じて天体観測の基礎的な知識を身につけるとともに、移動天文台等を通じて星について伝える技術についての研修機会を提供できた。</p>	
<p>▼ 天文ボランティア養成講座 1回全6日間 受講者:21名</p>		
<p>▼ 昼間の星を見よう 利用者からの意見を反映した、科学館屋上の天文台で昼間の金星等の観望会を実施した。また、曇天・雨天時は、望遠鏡操作体験を実施した。 45回 観覧者:710名</p>	<p>科学館屋上の望遠鏡を活用し、来館者に対し昼間でも見られる明るい星を紹介することができた。</p>	
<p>▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力 ▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。</p>		

- ・平成30年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・平成30年度道央地区博物館等連絡協議会総会・第1回研修会等(道央地区博物館等連絡協議会)
- ・第27回(平成30年度)指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会)
- ・日本博物館協会全国博物館館長会議及び平成30年度第1回全国博物館協議会理事会・総会等(全国科学博物館協議会)
- ・平成30年度北海道青少年科学館連絡協議会職員研修(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・地域の情報発信拠点としての博物館～観光と博物館の連携を探る～(北海道博物館協会・道央地区博物館等協議会)
- ・平成30年度第2回全国科学博物館協議会理事会・第2回総会及び第26回研究発表大会(全国科学博物館協議会)
- ・CoSTEP開講特別プログラム「メタクリエイターの発想法」(北海道CoSTEP)
- ・北海道社会教育研究セミナー(北海道立生涯学習推進センター)
- ・北海道総合地質学研究センター第2回公開講座「地形・地質から北海道の自然災害を考える 地震火山列島日本」(北海道総合地質学研究センター)
- ・近畿大学理工学部・バイオコクス研究所公開講座(近畿大学理工学部)
- ・北海道バーチャルプラットフォームの構築と利用者推進セミナー(北海道Virtual Reality(VR)推進協議会準備事務局)
- ・北海道中学校理科教育研究会ユースネット「第1回定例会～授業公開～」(北海道中学校理科教育研究会ユースネット)
- ・理科実験研修会(北海道小学校理科研究会)
- ・科学館・博物館若手職員向けグローアップ研修交流会(静岡科学館)
- ・私たちの科学研究発表会(札幌市中学校文化連盟)
- ・北海道宇宙ビジネスセミナー(北海道大学リサーチ&ビジネスパーク推進協議会)
- ・第13回冬季研究大会(北海道小学校理科研究会)
- ・第26回日立サイエンスショーフェスティバル(公益財団法人日立市民科学文化財団)
- ・北海道小学校理科研究会総会研修会(北海道小学校理科研究会)
- ・第65回北海道小学校理科研究会(北海道小学校理科研究会)
- ・第9回 国際科学映像際ドームフェスタ(国際科学映像祭実行委員会、ギャラクシティ)
- ・全国プラネタリウム大会福井2018(日本プラネタリウム協議会)
- ・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会in釧路(日本プラネタリウム協議会北海道プラネタリウムネットワーク)
- ・日本公開天文台協会第13回全国大会(日本公開天文台協会)

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組を行った。

- 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取組を行なった。
 - ・サイエンZOO(動物園科学の日)(札幌市円山動物園)
 - ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
 - ・CISEネットワークへの参加(事務局:北海道大学総合博物館)
 - ・「サイエンス厚別」(札幌市厚別区PTA連合会)
 - ・北海道地域学校協働活動推進協議会(北海道石狩教育局)など
- 学校教育機関等と連携し、以下の取組を行なった。
 - ・実験実習の貸し出し 25団体79セット
 - ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」実施 10回267名
 - ・職場体験の受け入れ 5校18名
 - ・札幌市創意くふう作品展(札幌市創意工夫教育研究会ほか)
 - ・北海道青少年科学技術振興作品展(北海道発明工夫教育連携ほか)
 - ・「教員のための博物館の日in札幌(北海道開拓の村ほか)への参加
 - ・「科学”大”実験」(北海道科学大学)
 - ・地域プロジェクト演習「風の踊りをみてみよう！」(札幌市立大学)など

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

職員の資質向上につながる研修や講座等に参加し、情報の蓄積を続けており、評価する。これらの研修や講座で得た知識を活用し、今後も科学及び科学技術の知識の普及啓発に向けた取組に期待する。

市内外の社会教育施設と連携し、イベント内容の充実化を図り、交流を深めることができた。

科学館内だけではなく様々な社会教育施設と連携した事業を実施しており、評価する。このような交流から新たな交流が生まれていくことに期待したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等教育機関等と連携し、以下の取組を行なった。 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道インターナショナルサイエンスフェア(札幌啓成高校) ・「啓成SSH in 光の広場」への協力(札幌啓成高校) ・動画制作への協力(札幌西高校・札幌第一高校) など ● 地域と連携し、以下の取組を行なった。 <ul style="list-style-type: none"> ・新さっぽろ冬まつり(同実行委員会) ・あつべつ区民協議会イベントへの参加、協力 など ● その他 <ul style="list-style-type: none"> ・サッポロシティジャズ×コスモシアター(サッポロシティジャズ実行委員会) ・メカトロ教室((一社)日本機械学会) ・第4回マイコンレーサー北海道大会(北海道ロボット教育推進会) ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト((一財)日本宇宙フォーラム) ・ジオ・フェスティバル in Sapporo2018(同実行委員会) ・親子工場見学会((一社)セメント協会) ・ふしぎ★おどろき!サイエンス(札幌市子ども会育成連合会) ・ドーム映像制作ワークショップ(クリプトン・フューチャー・メディア㈱ほか) ・メディアアーツ事業プログラミング教室(札幌市観光文化局) ▼ 2階「学習コーナー」において、来館者が科学に関する学習ができるよう、テーマ別に資料を購入・展示した。 ▼ 市民の天文への興味・関心を高めるため、季節の星空情報や天文にまつわる話を掲載した天文情報リーフレットを隔月発行した。 6回 年計44,500部 ▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業務 <ul style="list-style-type: none"> ▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。 	<p>大学とのネットワークづくりを進めるとともに、各大学の特性を生かした学習機会の充実を図ることができた。</p> <p>地域に根差した博物館として、地域との連携は積極的に進めることができた。</p>	<p>他団体との連携を行うことで、市民に対し定期的に最先端の技術に触れられる機会を提供しており、今後も企業や大学等との連携に期待する。また、本市からの委託事業であるメディアアーツ事業をとおして、プログラミング教室等を開催しており、引き続き、このような取組に期待する。</p> <p>月や惑星の動き、季節ごとの天体情報などを市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。</p> <p>解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。</p> <p>来館者とのコミュニケーションは、利用者に知識を与えるだけでなく、科学が好きなようになるきっかけにもつながることから、今後も丁寧な解説等を期待する。</p>
--	--	--	---

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 (人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29実績</th> <th>H30計画</th> <th></th> <th>H30実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td> <td>234,725</td> <td>200,000</td> <td></td> <td>223,730</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム</td> <td>117,700</td> <td>127,663</td> <td></td> <td>107,017</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>352,425</td> <td>327,663</td> <td></td> <td>330,747</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>事業参加者数</td> <td>63,700</td> <td>-</td> <td></td> <td style="background-color: yellow;">64,193</td> </tr> </table> ▽ 不承認0件、取消し0件、減免30,050件、還付0件 ▽ 利用促進の取組 ▼ 夏冬春の小学校などの長期休み期間以外でも、閑散期に家族で楽しめるイベント(スペシャルサイエンスデー、プラネタリウム祭りなど)を開催した。また、他団体との連携事業(SSH指定校・CISEネットなど)により新しい来館者層の掘り起こしに務めた。 さらに、札幌市天文台も活発な広報活動や地域イベントに協力した。 ▼ リピーターの拡大を図るため、展示室年間パスポートの販売を行った。また、小中学生を対象に会員を募り、メールマガジンでイベントの案内を行うほか、会員を対象としたイベントを実施した。 ・展示室年間パスポート販売数:1,138枚 ・Sciキッズ会員:76名(新規39名、更新37名)	区分	H29実績	H30計画		H30実績	展示室	234,725	200,000		223,730	プラネタリウム	117,700	127,663		107,017	総計	352,425	327,663		330,747	事業参加者数	63,700	-		64,193	工夫した各種実験教室や特別展の実施、また広報の充実により、利用促進を図ることができた。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th style="background-color: pink;">B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> 前年度に比べ、施設利用者数は減じたものの、事業参加者数については昨年度を上回っていることから、効果的な事業となるよう検討し実施しており、評価する。 引き続き、多様な事業をおとした新しい利用者の確保に期待したい。 利用者が減じないように閑散期に対する取組や、新規利用者の確保に向けた取組を実施しており評価する。 また、年間パスポートの導入により、リピーターの増加につながる取組も行っていることから、今後の更なる利用者数の増加に期待したい。	A	B	C	D
	区分	H29実績	H30計画		H30実績																											
展示室	234,725	200,000		223,730																												
プラネタリウム	117,700	127,663		107,017																												
総計	352,425	327,663		330,747																												
事業参加者数	63,700	-		64,193																												
A	B	C	D																													
(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の向上に努めた。 ▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。 ▼ マスコミに対し、積極的に情報提供を行った。 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。	プレスリリース等を積極的に行い、当館の事業について広く市民に知ってもらうことができた。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th style="background-color: pink;">B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> 今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。	A	B	C	D																									
A	B	C	D																													
2 自主事業その他																																
▽ 自主事業 ▼ 自動販売機事業 売上高5,184,979円 ▼ 売店事業 売上高6,305,450円 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。	物品調達等は、引き続き市内企業を活用し取り組むこと。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th style="background-color: pink;">B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table>	A	B	C	D																										
A	B	C	D																													

<p>▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。</p> <p>▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の貸し出し ・プラネタリウムでの補聴器貸し出し ・字幕付きプラネタリウムの実施 		
3 利用者の満足度		
▽ 利用者アンケートの結果		
<p>実施方法</p> <p>結果概要</p> <p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらえるよう声掛けをする形式で実施した。 集計数:367件</p> <p>科学館の感想 とてもよかった(51.2%) / よかった(42.2%) / ふつう(5.5%) / あまりよくなかった(0.8%) / よくなかった(0.3%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(58.0%) / よかった(36.2%) / ふつう(5.8%) / あまりよくなかった(0%) / よくなかった(0%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(58.5%) / よかった(35.2%) / ふつう(6.0%) / あまりよくなかった(0%) / よくなかった(0.3%)</p> <p>【意見・要望】 ・車いす利用者より、地下鉄から科学館へのルートを教えてもらいたい</p> <p>【対応】 ・地下鉄出口から科学館までのルートを検証し、要望者へルートマップを提供した。</p>	<p>アンケート結果から、事業、接遇ともに「とてもよかった」、「よかった」「ふつう」との評価が95%以上を占め、概ね満足をいただくことができた。</p> <p>各種アンケート結果が良好であり評価する。引き続き、高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望に応えていくなど、市民サービスの向上に努めること。</p>

4 収支状況				A	B	C	D
▽ 収支 (千円)							
項目	H30年度計画	H30年度決算	差(決算-計画)				
収入	454,057	448,367	▲ 5,690	利用料金収入は減じたものの、純利益が増につながっていることから、支出に関する事業の見直しが適正に行えており、評価する。 なお、収支計画と比べて利用料金が10%程度減じていることから、青少年を中心としながらも高校生以上の来館を促す取組に期待したい。			
指定管理業務収入	441,057	433,216	▲ 7,841				
指定管理費	359,469	359,935	466				
利用料金	79,186	70,551	▲ 8,635				
その他	2,402	2,730	328				
自主事業収入	13,000	11,490	▲ 1,510				
受託事業収入	0	3,661	3,661				
支出	448,578	437,745	▲ 10,833				
指定管理業務支出	438,148	427,105	▲ 11,043				
自主事業支出	10,430	7,440	▲ 2,990				
受託事業支出	0	3,200	3,200				
収入-支出	5,479	10,622	5,143				
利益還元	0	0	0				
法人税等	35	717	682				
純利益	5,444	9,905	4,461				
▽ 説明							
・収入面では主に観覧料が減収となり、利用料金が落ち込んだ。売店・自動販売機等の自主事業に関する収入は昨年度とほぼ同規模となった。支出面は、人件費や委託費を抑え、収支の均衡を図った。							

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持		適	不適
▼ 当団体の財務状況等は良好である。			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適
▼ 各条例の規定にのっとり、全て適切に対応している。			

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
「学校教育との連携」「生涯学習の推進」「地域・他施設との連携」「効率的かつ安心・安全な管理運営」の基本方針を意識し、常設展示・実演及びプラネタリウム等の運営を行い、市民に対して科学への興味関心を喚起した。また、研修等により職員の専門性の向上や、外部団体との連携等により、魅力的な事業展開を図ることができた。	前年度同様、学校教育・生涯学習へのアプローチ、地域や他団体との連携を意識し運営していく。さらに、老朽化が進む施設(団体受付システム含む)及び展示物の保守管理について、教育委員会と協議を進め、スピード感をもって修繕等の維持管理に努めたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
札幌市青少年科学館では、小惑星探査機「はやぶさ2」や「火星最接近」など話題性の高い題材を取り上げたプラネタリウム番組の上映を行い、札幌市天文台では、火星最接近に伴う特別な夜間観望会を開催し、市民の知的好奇心の探究に寄与する取組を実施しており評価する。 また、他団体との連携した科学教室の中では、メディアアーツ事業として様々なプログラミング教室を行い、子どもだけでなく大人も一緒に楽しめるような取組を実施しており評価する なお、展示物が年々老朽化する中で、利用者数及び利用料収入の減少は難しい課題ではあるが、引き続き、時宜を得た取組や市民ニーズを踏まえた取組による運営に期待する。	老朽化に伴う休止や故障する展示については、本市との連携を密に取るよう維持管理を徹底すること。 また、新規利用者やリピーターを確保する取組の一つとして、他団体との連携した事業は大変効果的であることから、引き続き、市民の声やアンケート結果を踏まえながら内容を検討すること。 なお、事業については、新しいものを考えることは重要である一方、職員の過度な負担とならないよう減らす必要もあることから、適宜事業を見直し、スクラップ&ビルドにより業務が平準化するよう努めること。